**議　事　録**

|  |  |
| --- | --- |
| 会 議 名 | 令和6年度第2回八潮市水道運営委員会 |
| 開催日時 | 令和6年11月29日（金）　午後1時30分～2時50分 |
| 出席委員 | 村山委員長、木村副委員長、渡部委員、中嶋委員、最川委員、飯山委員、永倉委員、  村松委員、玉森委員　9名 |
| 次 第 | 1. 開　　会 2. あいさつ 3. 議　　題   (１)　八潮市水道事業ビジョン・経営戦略（素案）について  (２)　令和5年度八潮市上水道事業の決算について  　　（３） 令和6年度八潮市上水道事業上半期仮決算について   1. 閉　　会 |
| 議 事 | 1. 八潮市水道事業ビジョン・経営戦略（素案）について、事務局からの説明後、質疑応答を行った。   〇主な質疑応答・意見  （ 委員 ）  　最近、PFASの情報が盛んに報道されている。八潮市水道事業ビジョン・経営戦略（素案）の中にも明記されていたので安心しているが、そのような情報は報道で知ることが多いと感じている。  的確な情報を迅速に提供することが重要だと思うので、水道だよりの発行を増やす等、検討して欲しい。  （ 事務局 ）  　PFASの測定結果については、八潮市では基準値を大幅に下回っているため、問題はない  ことが確認できている。  また、測定結果はホームページで速やかに周知するとともに、水道だよりでも公表し  ている。  今後は、その他の手法についても検討し、皆様に迅速に見ていただけるようにしていきたい。  （ 委員 ）  物価が上がっていることもあり、耐震化工事が遅れているように感じる。効率的な財政対策を考慮しながらも、安全対策を進めていってもらいたい。  （ 事務局 ）  耐震管率については、法定耐用年数が基準となっている。  管路の法定耐用年数と実際の耐用年数を比べた場合、法定耐用年数の方が短いため、なかなか進捗率を上げるのが難しい状況となっている。  今後は、実使用年数も考慮しながら、優先順位をつけて整備することにより、管路の安全対策を適切に行っていきたい。  （ 委員 ）  　八潮市の上水は県水に約８割頼っている状況であるが、自己水の割合を増やすなど、他にできることはないのか。  現状の水道料金が高かったり、将来の値上げが必要になったりするのは、県水に頼り過ぎているからではないか。  （ 事務局 ）  八潮市の水道料金は、水道メーターの口径が１３mmで、１か月に１０㎥を使用した場合と２０㎥を使用した場合のいずれにおいても、県内の平均値を下回っている。  県内でも水道料金の値上げをしている事業体が徐々に増えてきているが、これは県水をはじめとする価格の高騰が影響しているものと考えている。  　自己水を汲み過ぎた場合、地盤沈下の影響も考えられるため、水道部としては、現在の自己水と県水の割合が適切であるものと考えている。    （ 委員 ）  　各事業体の水道料金について、地域による金額の差があるのか伺いたい。  （ 事務局 ）  　人口が少ない地域は、事業費用を負担する人も少ないため、水道料金が高くなる傾向がある。八潮市周辺の地域については、人口も増加しているため、比較的料金が安い傾向にある。  （ 委員 ）  水道事業の健全化のためには、水道料金の値上げは避けられないと捉えてよいのか伺いたい。  （ 事務局 ）  今回お示しした財政シミュレーションは、あくまで複数ある条件の中から試算した結果の内の一つである。  ただし、県水料金の改定方針も公表されており、本市の今後の純利益が減少していくことは確実な状況である。  管路等の更新を水道事業の純利益等で進めていく以上、水道料金が現状より下がることはないと考えている。  今後は現状料金の維持に向け、どれだけ経費削減が図れるかが重要であるが、それでも施設の更新が継続できないと判断した場合は、料金の改定についても検討していく必要があるものと考えている。  （ 委員 ）  県水の値上げは、八ッ場ダムの整備に要する費用を負担するためと聞いたことがある。  値上げの理由について伺いたい。  （ 事務局 ）  埼玉県からは、施設の整備に関する減価償却費、事業経費が増加しているためと伺っている。   1. 令和5年度八潮市上水道事業の決算について、事務局からの説明後、質疑応答を行った。   質疑なし  3.　令和6年度八潮市上水道事業上半期仮決算について、事務局からの説明後、質疑応答を行った。    〇主な質疑応答  （ 委員 ）  公道漏水２６件の主な原因を伺いたい。  （ 事務局 ）  件数については、昨年度と比べ、２件減少している。  また、漏水したのは、主に家庭に引き込んでいる給水管である。古いポリエチレン管が劣化し、破損したことが主な原因である。  4．会議全体について、質疑応答を行った。  　質疑なし  以　　上 |